

イ 土壌調査

調査対象地域における土壌の分布と特性を明らかにするための調査である。当該調査では、調査対象地域における代表的な地点を選定して土壌断面調査を実施し、土壌断面の形態的特徴や理化学的性質を把握した上で、土壌分類を行うとともに、分類された各土壌単位の境界線を踏査により明らかにして土壌図を作成する。

ウ 注目すべき地形及び地質調査

調査対象地域における注目すべき地形、地質（岩石・鉱物の露頭、地質構造、化石産地）及び自然現象の分布、注目すべき理由、事業地との位置関係、規模、特性、保存状態、地域住民とのかかわる等を明らかにするための調査である。

(ア) 現地フィールド調査

調査員が現地を訪れ、作業することによってデータを取得する調査である。

(イ) 資料調査

既存の資料によりデータを取得する調査である。

(ロ) ヒアリング調査

学識経験者や地域住民等へのヒアリングによりデータを取得する調査である。

(4) 調査時期

調査対象や調査手法の特性、把握すべき情報等を考慮して、効果的な時期及び時間帯びと十分な期間を設定する。

調査時期は、基本的には季節的な制約を受けないが、植物の葉がすいて地形が見通せ、移動も比較的容易な落葉期に行われることが多い。ただし、樹氷など調査時期や時間帯が限られているものもある。

また、土壌については、土壌が凍結してしまう冬季、長雨の続く時期及び雨天時は、土壌特性の判定を誤る危険性が高いため、避けることとする。

(5) 調査地点・ルート

調査地点・ルートは、調査対象や調査方法に応じて効果的な地点・ルート及び十分な地点数・ルート数を設定し、可能な限り図示する。

(6) 調査体制

調査対象、調査手法、調査地点、ルートに応じて、適切な調査日数、人員（人数、調査員の経験年数等）する。なお、調査は天候等に大きく左右され、安全管理上も問題が生じるおそれもあるので、十分な余裕を持った調査体制とする必要がある。

11-4-2 現況調査

保全目標となる注目すべき地形・地質等を明らかにするために、先に作成した現況調査計画に従って、現地フィールド調査、資料調査及びヒアリング調査を実施し、その結果を地形分類図、土壌図、注目すべき地形・地質分布図及びリスト等を作成して取りまとめる。

なお、現地フィールド調査の実施に当たっては、現場の状況に則したきめ細かな対応等が必要である。

1 現況調査の実施と取りまとめ

先に作成した現況調査計画に従って、現況調査を実施する。

調査結果は、調査対象地域、調査対象、調査手法、調査時期、調査地点・ルート、調査体制を記述して、各調査ごとに次のとおり取りまとめる。

(1) 調査概要

- ア 調査対象地域
 - イ 調査対象
 - ウ 調査手法
 - エ 調査時期
 - オ 調査地点・ルート
 - カ 調査体制
 - キ 地形調査及び土壌調査
- (2) 地形調査及び土壌調査
- ア 地形調査
 - (ア) 地形図（縮尺は一般に5,000分の1程度。ただし、事業地規模等の状況に応じて1,000分の1～1万分の1）
 - (イ) 各種の地形特性図（地形分類図、傾斜分類図、水系図、不安定地形分布図）
 - (ウ) 地形特性の概要
 - イ 土壌調査
 - (ア) 土壌断面柱状図及び土壌断面写真
 - (イ) 土壌の理化学的性質一覧表
 - (ウ) 土壌図（縮尺は一般に5,000分の1程度。ただし、事業地規模等の状況に応じて1,000分の1～1万分の1）
 - (エ) 土壌特性の概要
 - ウ 施設配置等に当たっての配慮事項
 - (ア) 施設配置等に当たって保全上配慮すべき事項
- (3) 注目すべき地形及び地質調査
- ア 各注目すべき地形・地質の個票（名称、位置（事業地との位置関係）、規模、特性、保存状態、現況写真、注目すべき理由）
 - イ 注目すべき地形・地質の分布図（縮尺1,000分の1～数千分の1程度）
 - ウ 注目すべき地形・地質のリスト
- なお、現地フィールド調査の実施に当たっては、急傾斜地や林床植生の繁茂等の障害、悪天候等によって計画どおりに行かない場合もあるので、調査手法、調査時期、調査地点・ルート等を適宜修正するなど、柔軟な対応が必要である。